

世界の人びとのためのJICA基金・業務完了報告書

1. 業務の概要:	
(1) 事業名	バングラデシュ国 現地NGO「シONDANI・シONスタ」が運営している母子保健センターの職員の能力向上を目的とした研修を実施する
(2) 実施団体名	バングラデシュと手をつなぐ会
(3) 実施期間	平成21年11月1日～平成22年4月30日まで
(4) 実施国	バングラデシュ
(5) 活動地域	メヘルプール県カラムディ村
(6) 活動概要	<p>活動の背景:</p> <p>バングラデシュ・メヘルプール県カラムディや周辺の村人の要請で1995年に母子保健センターが建設されたが、僻地なので長期にわたって勤務する正規の医師や看護師がなく、悩まされている。スタッフ不足のため診療活動が度々中断されたこともある。この問題を解決するために、2002年に地元の高卒生をソーシャル・ワーカーとして採用し、保健センターで看護師と一緒に様々なことを体験・学習し、現在保健衛生指導に従事している。いま医療関係者や地域住民から高い評価を受けている。しかし正式な教育がないため知識が浅く、技術も乏しい。正規の看護師の出入りが激しいが、ソーシャル・ワーカーたちは採用されて以来ずっと働いている。故郷のためにもっと貢献したいという意欲が十分に見られる。手をつなぐ会のメンバーが毎年夏と冬の現地訪問の際、これらのスタッフと非公式懇談を行い、彼女たちの生き生きとした話し方や問題意識にとっても感動する。彼女たちはいま巡回検診やサテライト・クリニック、また保健センター内の外来や分娩室で自発的に手伝いをし、地域ネットワークづくりに取り組んでいる。</p> <p>現地NGOのシONDANI・シONスタはこれらの貴重な人材に専門的知識・技術を学ばせ、地域の保健医療活動に体系的に従事してもらいたい。社会の仕組み、人々への接し方、世代ごとに人々のニーズを把握し、それに対する適格な対応の仕方など、いわゆるソフトの面での教育が研修内容である。</p> <p>活動の目標:</p> <p>バングラデシュと日本の相互の文化を理解・尊重し、草の根レベルの交流を推進することを目的とする。そのために、バングラデシュ・カラムディ村の現地NGO「シONDANI・シONスタ」と協力し、カラムディ村及び周辺地域の教育・医療・生活向上のための活動を行う。</p>

2. 業務実施結果:

(1) 実施した内容

【実施内容】 コミュニケーションの仕方

自己紹介、研修内容確認、施設についてのオリエンテーション、基礎知識事前調査や確認、研修に対する研修生の期待度調査、解剖学、様々な検査について基礎知識、外来患者との対応やコミュニケーションの仕方、記録の書き方など

【実施内容】 実習

分娩室で患者さんとの対応の仕方や手伝い、ベッドメイキング、妊婦さんや乳幼児の扱い方、妊婦健診や産後検診についての指導、病棟の清掃、ドレッシングなど

【実施内容】 フィールドでの研修

妊婦健診について指導の仕方、幼児養育、栄養教育、家族計画について本人や家族に対する説明の仕方、未婚の女性や中学生や高校生に対して家族計画や幸せな家族づくりについてアドバイス、年寄りの世話、バランスのとれた食事などについて学びました。

(2) 実施成果:

現地 NGO ショングニ・シヨングニスタが結成されてからフォーマルな職員研修は今回が初めてです。職員は今まで何度か職場研修を受けていますが、それは直接自分の上司や仲間によるものでした。採用以来、自分の職場を離れて正式な研修期間での計画的に研修を受けることは職員にとってとても有意義なものでした。研修成果はすでに現われています。研修終了後、職員は職場に戻り、反省文を書き、発表会をしました。今回は自分たちが講師になり、これまでの自分の未熟さを率直に話しました。これまで職員は自分の足りない点を他人に語るというよりそれを隠す傾向が高かったのです。自分の問題点に気づくことがこれからの役割遂行に大いに役に立つと思います。

プロジェクト成功のカギを握っているのは、プロジェクトに対する職員の知識や行動力です。プロジェクトの企画から実現まで職員はどのような形で参加するか、計画をどのように立てるか、職員や地域住民の参加をいかに確保できるか、それぞれの役割分担をどのように行うのかなどについて勉強になったと職員は話しています。またヘルス・コーディネーターはショングニの今年度の年間活動計画や予算づくりに大いに貢献したと話しています。

職員は研修外にもいろいろな活動に参加し経験しました。毎朝農場で働いたり、自転車に乗って村を散策したり、掃除したりすることによって仕事に対する考え方や取り組み方が変わったようです。今まで家族や村を離れることのない田舎女性にとって集団生活は辛かったと思いますが、しかしその中で寮生活を通して集団生活の規範を学び、社会の中に様々な考えを持っている人が住み、それらの人々のニーズをいかに把握し、適格に応えるか、また様々な状況に対す適応の仕方が身に着いたと職員から報告を受けました。

(3)得られた教訓など:

仕事に対する価値観の変化:

バングラデシュの女性は一般的に畑で働くことはありません。これは男性の仕事というレッテルがあるからです。今回の研修の中に全職員並びに研修生ともに畑で働き、自給自足の重要性を学びました。このことはどの仕事でも男女や上下関係なく、平等だという教訓を得たと思います。

また村に出て行って体の不自由な人や年寄りの世話もしました。そのほか研修生は自転車に乗って村に出て行って仕事をしたりしました。バングラデシュの女性はいまだに自転車に乗ることに対して抵抗があります。研修期間中に自転車に乗る習慣が付き、急いで早く村に出ていくことの重要性を感じたそうです。スポーツに参加することももう一つの教訓であります。スポーツを通して体力作りや連帯感も強化されました。

体系的な専門知識の獲得

ソーシャル・ワーカーたちは高校卒業後すぐにシオンダニの職員になり、見習ながら仕事に励んでいました。同僚を見ながら仕事を覚えることに限界があります。またソーシャル・ワーカーの一期生に模範になるような人もいなかったのです。ほとんど自己努力で学んだ知識ですので、自分の活動は正しいかどうかその判断基準もなかったのです。今回の研修で様々の分野でいろいろなことを体系的に専門家から学び、自分の過去と現在を比較することができたのです。

研修終了後、研修生はこれらの教訓をこれから自分の職場で活かしたいと述べています。

(4)今後の活動・フォローアップの方針:

現地 NGO のシオンダニ・シオンスタから毎月一度定期的に活動報告が文書で当会に送られてきます。その中にももちろん数字的なものもありますし、活動状況が分かるような説明も文書で送ってきます。そのほかこちらから要求する質問や要請に答えてくれるのです。

バングラデシュと手をつなぐ会の会員は毎年夏の現地訪問と冬のスタディツアーを実施しています。夏の現地訪問には当会の代表や副代表が同行し、現地スタッフから直接報告を受けたり、村に出て行って村人と話し合いしたりします。その様な方法で情報を収集し、気になることがあればそれについて相談に乗ります。また現地訪問の時に得られる情報を会報やメールで会員や市民に伝えています。

これからもこのようなフォローが継続する方針です。

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 活動中のエピソード・感想など

感想文

エクラムール ホーク(ヘルス・コーディネーター)

2009年11月から4ヶ月間の研修を受けました。この研修は私にとってとても有意義なものでした。私は予定されていた研修内容よりもっと深いところまで見ることができました。研修期間の関係者たちの日常生活や将来感、プログラムの目標、女性職員のかかわり方、保健衛生関係職員の研修、村での活動、研究や広報など、生活向上に関するプロジェクトなどを見ることができました。職員の85%は女性であり、さまざまなレベルの仕事をこなしています。研修内容について言えば、開発戦略、プロジェクトについての認識、リーダーシップ、モチベーションの仕方、職員のマネージメント、チームワーク、問題解決方、情報伝達、管理や監督、記録や報告、安全な飲み水、プライマリ・ヘルスケア、生活向上に関するプロジェクトの立て方、災害時の対応の仕方などについて研修を受けました。この研修はこれから私がショングニの活動を遂行する上で大変に役に立つと思っています。すでに得られた知識を元にショングニの2010年度の予算作成をしました。

最後に私にこのような研修機会を与えてくださった関係者、特に JICA やバングラデシュと手をつなぐ会、また更に日本人の皆さんに感謝をしたいと思います。

研修で得た経験と感想 マルフィア カトゥン(ソーシャル・ワーカー)

研修期間に行く途中で体調を崩してしまい、不安に落ちました。しかし研修が始まると、さまざま活動に参加し、元気を取り戻し、残りの時間を楽しく過ごしました。研修は農場で働くことで一日始まったのです。バングラデシュでは一般的に農場で働くのは男性の仕事だと思っていましたので、最初は戸惑いました。しかし生きるためにどんな仕事もしなければならないと思い、今までの信念を考え直しました。ショングニ・ショングスタとゴノシャスト・ケンドロの違いはこういうところにあると思いました。研修の内容というより、ゴノシャスト・ケンドロの職員はどのように仕事をしているか、どのように人々に医療サービスを提供しているか、どのようにモチベーションをしているかをよく観察し、自分なりに模索をしていました。研修以外にも私はスポーツに参加し、水泳と自転車レースで優勝しました。

これからショングニでの仕事する上で研修で得られた知識を大いに役に立ち、計画的に活動をこなしていきたいと思います。

ゴノシャスト・ケンドロにおける研修経験 アシュラフンネサ(ソーシャル・ワーカー)

私はゴノシャスト・ケンドロという研修機関で3ヶ月間の研修を受けました。24時間体制のこの研修ではじめは少し戸惑いがありました。学校教育外にこのような研修に初めての参加です。本当にいえば、このような場所があること自体もわかりませんでした。しかし私の能力向上のためにとっても必要な研修と思いました。

私達は最初に自己紹介や研修で何を求めているかなど書いてある用紙を記入し、研修期間中のいろいろな規則などについて紹介がありました。医学関係の教科、すなわち解剖学、生理学、細胞、細菌学などを勉強しました。実習では、分娩室の準備、患者の入院手続き、ベッドメイキング、乳幼児や産後の母のケア、清掃、尿検査などをしました。外来で患者さんの病歴、熱や体重測り、カウンセリングなどについて学びました。フィールドに行って妊婦や児童の健康チェック、底辺層の人々の健康管理、年寄りのケア、家族計画などについて勉強しました。

この研修で一番大きな収穫は、社会的障害を乗り越えていかに活動をするかその知識を得ることでした。たとえば毎朝農場で働くこと、自転車に乗ること、水泳、清掃、寮での平等生活などは私にとって新しい経験でした。これらの経験に基づいてこれから仕事に従事したいです。

ゴノシャスト・ケンドロにおける経験をこれからの活動にいかにか活かすか スルタナ・ヤスミン(ソーシャル・ワーカー)

シオンダニ・シオンスタで長い間ソーシャル・ワーカーとして働いていますが、専門的な研修は今回初めてです。母子保健に関する研修領域は広くて、短い時間ですべて理解することが難しかったのです。しかし細かく計画された研修内容やインストラクターの先生たちの親切な指導のおかげで様々なことを学ぶことができました。

ゴノシャスト・ケンドロのモットは村に出て行って村人と一体になって活動することです。これはシオンダニのモットと同じです。社会活動に女性の参加、宗教的支配を乗り越えて女性の社会進出、自転車に乗って村人の近くに行くことなどがとても勉強になりました。

これからこれらの経験をシオンダニの活動に役立てたいです。この研修を可能にした JICA やバングラデシュと手をつなぐ会に感謝したいです。

研修で得たこと アンジュマンアラ カトゥン (ソーシャル・ワーカー)

このような研修を期待していました。なぜならば発展するために研修は欠かせないものです。研修が始まる前に少し心配していました。初めての研修、それもダッカで。私はシオンダニ病院の外来で仕事をしています。研修スケジュール以外にも私はゴノシャスト・ケンドロが運営している病院の外来、病棟の仕事、患者さんや付き添った人たちとの接し方などを興味深く見ていました。シオンダニもこのような研修機関を作るべきだと思います。このような研修機関があれば一方収入が増え、他方人件費が安くなるからです。研修生にも仕事してもらえらるからです。研修で得た経験をシオンダニの活動にぜひ実現したいのです。

研修を終えて サビナ カトゥン (ソーシャル・ワーカー)

3 か月研修は個人情報記入から始まり、自己紹介、研修で希望する項目、研修計画や規則などについてオリエンテーションがありました。そして他の研修員と同じカリキュラムに沿って教育がはじまりました。そのなかに、人体、細胞学、細菌、医療器具などについて基本的なことを学びました。産科病棟で患者さんの入院手続き、ベッドメイキング、産後検診、清掃なども学びました。外来では患者さんの問診記入方法、カウンセリング、簡単なドレッシングなど、いろいろな検査方法も実習しました。私たちは毎朝早く起きて農場で仕事しなければいけなかったのです。自転車に乗って村に出て行ったり、水泳もしました。これらの経験は今までなかったので最少は少し戸惑いました。しかしだんだん慣れてきて楽しくなりました。研修で学んだことをこれから自分に活動に生かしたいと思っています。

私の経験 スマイヤ カトゥン (ソーシャル・ワーカー)

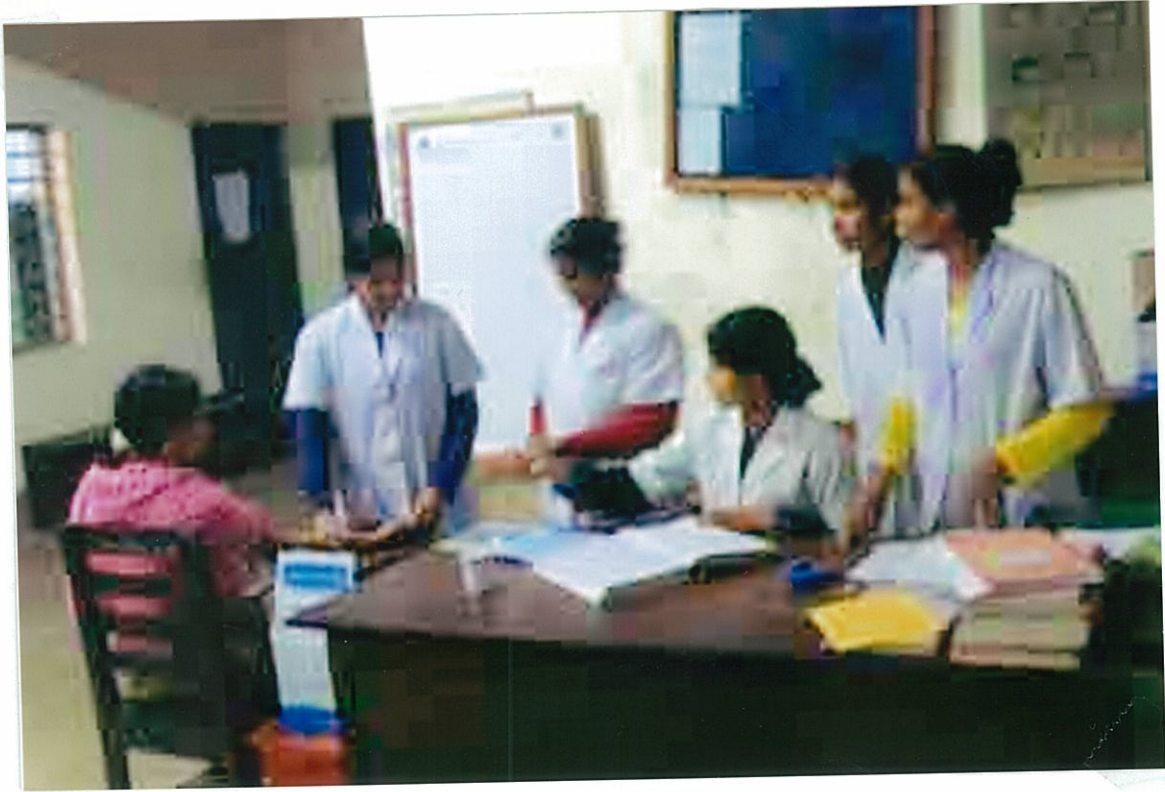
私はダッカにあるゴノシャスト・ケンドロにおいて3カ月の母子健康について研修を受けました。私の前にも同僚たちも研修を受けましたので、研修内容や研修機関の環境などについてある程度の情報がありました。したがって研修機関に来てもそれほど驚くことはありませんでした。このような研修は私にとって初めての経験です。シオンダ二病院とゴノシャスト・ケンドロの病院や医療サービスの間に共通したものはたくさんあります。だからここでの研修は大いに役に立ちます。また研修終了証書もいただきました。これも私にとって初体験です。とても嬉しく思います。関係のみなさんや機関に感謝しています。



Pathological test using microscope



Meeting with old villagers
about their daily lives



Taking medical history
and preparing for taking pulse



Group discussion



Group discussion



Observing doctor's activities in a hospital ward.